

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 次世代エネルギー-産業創出コンソーシアム事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 商工・エネルギー政策課 エネルギー係 電話番号：058-272-1111(内3623)

E-mail：c11351@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 11,900 千円 (前年度予算額： 11,900 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	11,900	5,810	0	0	0	0	0	0	6,090
要求額	11,900	5,810	0	0	0	0	0	0	6,090
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・県では、2050年「脱炭素社会ぎふ」の実現に向けたエネルギー政策の方向性を示す「岐阜県エネルギービジョン」を令和4年3月に策定した。
- ・上記ビジョンでは、「脱炭素社会促進プロジェクト」「エネルギー地産地消プロジェクト」「産業の脱炭素化プロジェクト」の重点プロジェクトを掲げ再エネ・省エネの普及促進及び産業振興に取り組んでいる。
- ・今後国際的な脱炭素化に向けてエネルギー関連市場の拡大が予測され、産学金官連携による次世代エネルギー技術の開発・製品化を促進し、県内へエネルギー産業を創出する必要性がある。

(2) 事業内容

○負担金	11,620千円
・事務局運営費	188千円
・講習会及び先進事例見学会開催事業費	377千円
・ワーキンググループ活動支援事業費	10,000千円
重点支援：補助率1/2、上限400万円	
一般支援：補助率1/2、上限200万円	
・展示会出展支援事業費(メッセナゴヤ等)	740千円
・部会活動事業費	315千円

(3) 県負担・補助率の考え方

岐阜県エネルギービジョンに基づく事業であり、県が実施することが妥当である。

また、エネルギービジョンにおいても「産業の脱炭素化プロジェクト」を重要施策の1つとして掲げており、県が実施することが妥当である。

コンソーシアムは県負担金と会員からの会費により運営する。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金	11,620	事務局運営費、技術講習会及び先進事例見学会開催事業費、WG活動支援事業、展示会出展支援事業費、部会活動事業費
事務費	280	コンソーシアム事業の円滑な推進のための県運営費
合計	11,900	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県エネルギービジョン

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

産学金官が参画する「次世代エネルギー産業創出コンソーシアム」の会員が連携して、再生可能エネルギーの活用技術や新たな省エネルギー技術の調査・研究開発によって、県内エネルギー産業の創出を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R7)	
					達成率	
①技術開発助成 件数（累計）	/	44件	53件	58件	68件	65%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 令和2年度総会の開催（書面議決） 令和元年度ワーキンググループ活動成果発表会実施 令和2年度ワーキンググループ活動支援補助金に2件交付採択（2,520千円）
令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 令和3年度総会の開催（書面議決） 令和2年度ワーキンググループ活動成果発表会実施 令和3年度ワーキンググループ活動支援補助金に4件交付採択（6,596千円）
指標① 目標：48件 実績：44件 達成率：92 %	
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加
指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %	

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 3	エネルギービジョンの柱である「産業の脱炭素化プロジェクト」の重要施策であるため
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	コロナの影響で、ワーキンググループの形成が困難であったため助成件数は伸び悩んでいるが、自律分散型エネルギーシステムに不可欠な蓄電池の開発が進んでおり、実用化が期待される。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価) 2	次世代エネルギーに関連した技術講習会を会員のニーズに応じて実施することにより、習得した知識・情報を基にしたワーキンググループ組成に繋げている。 また、ウィズコロナ時代に対応するため、リモートを併用した講習会の開催などを実施している。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 研究機関の持つ技術シーズ(とりわけ岐阜大学)の有効活用などにより、ワーキンググループの形成を促進させていく必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 岐阜大学工学部教員をリーダーとして設置した、分科会による勉強会の活動を促進し、所属する会員の知識・技術向上や、会員・リーダー間のマッチングを行い新規性の高いワーキンググループ構築を促す。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	【〇〇課】
--	-------